報　告

未成年の喫煙要因および喫煙防止要因に関する文献検討

川端　智子[1)]，竹村　淳子[2)]

〔論文要旨〕

本研究の目的は，未成年の喫煙要因および喫煙防止要因はどのようなものがあるのかを，社会的認知理論の枠組みを用いて明らかにすることである。医学中央雑誌 Web Ver 5 および PubMed，CINAHL の検索システムを利用して未成年の喫煙要因に関する過去約10年間の文献を抽出し，検討した。

未成年の喫煙防止教育を効果的に行うためには，社会全体として子どもを喫煙から守るための環境整備，良好な親子関係，子どもをサポートする立場にある親は，健康や喫煙に対する正しい知識を備えていることが重要であることが明らかになった。また，ストレスマネジメントや感情コントロールの方法について教育していく必要性が示された。

Key words：未成年，喫煙要因，喫煙防止要因，社会的認知理論

Ⅰ．はじめに

未成年の喫煙は，大井田らの調査[1)]によると，未成年で毎日喫煙している者は，中学生男子0.7％，女子0.3％，高校生男子3.5％，女子1.4％であり，喫煙経験率は，中学生男子10.2％，女子7.2％，高校生男子19.5％，女子12.5％である。また，原ら[2)]は，小学生においても３％喫煙しているとの報告をしており，未成年の喫煙率は年々減少している。

未成年の喫煙率が減少した理由は，学校での喫煙防止教育の充実と社会的な喫煙規制の強化が挙げられることや，社会全体に喫煙の害に関する認識が広まり，喫煙する大人が減ってきたことも大きな原因であるとされており，未成年の喫煙率の低下には，社会的な要因と喫煙防止教育が影響していることがわかる[3)]。

現在日本の学校教育における喫煙防止教育は，学習指導要領[4,5)]の中で，小・中・高等学校の体育および保健体育で喫煙と健康の関連について教育することが掲載されている。また，特別活動では，健康の保持増進の観点から，学級活動等や道徳でも喫煙防止を取り扱っている場合がある。しかし，これらは必ずしも指導されているわけではなく，加納ら[6)]が実施した養護教諭を対象とした保健指導の実態調査によると，小・中学校での児童生徒を対象とする集団指導において，「飲酒・喫煙・薬物乱用と医薬品」のテーマで保健指導を実際しているのは，７～８％に過ぎず，指導時間確保が難しい状況であると報告されている。そのため，喫煙防止教育は効率的かつ効果的に行う必要があると考えられる。

未成年の喫煙行動に関連する要因については，1980年代からさまざまな研究がされている。未成年の喫煙行動には，友人や親，きょうだい等の周囲の喫煙行動，本人の過去の喫煙行動，将来の喫煙意思や喫煙行動の予測，喫煙に対する本人の態度，本人に関する周囲の態度，飲酒との関連等について国内外で報告されている。しかし，先行研究では，変数間の関連性の有無を

A Literature Review of Factors Related to Smoking and Smoking Prevention in Minors　〔2869〕

Tomoko Kawabata，Junko Takemura
1）滋賀県立大学人間看護学部（研究職 / 看護師）
2）関西福祉大学看護学部（研究職 / 看護師）

受付 16．9.13
採用 17．5．1

Presented by Medical*Online

述べているにとどまっているものがほとんどであり，実際に未成年の喫煙は，どの要因がどのように影響し喫煙または非喫煙に至っているのかという因果関係の構造を明らかにした研究はごく少数である[7,8]。また，それらの研究においても要因の一部を明らかにした研究であり，すべての要因を網羅的に分析している研究はみられない。

そこで，本研究では，未成年の喫煙要因，あるいは喫煙防止要因をBanduraの社会的認知理論の枠組みおよび主要概念を用いて整理し，未成年喫煙防止教育の方策を検討することを目的とする。社会的認知理論は，個人，環境，行動の間の相互関連を強調するために有用であり[9]，これらの相互の関連から未成年の喫煙行動を説明できると考える。また，未成年の喫煙は，個人的な要因だけでなく，環境的な要因も影響するとされていることから，未成年の喫煙の要因を分析するうえで非常に有用な理論であると考えるため，社会的認知理論の枠組みを用いる。

Ⅱ．研 究 目 的

本研究の目的は，未成年の喫煙要因および喫煙防止要因を社会的認知理論の枠組みおよび主要概念を用いて整理し，日本人を対象とした文献と外国人を対象とした文献でのそれぞれの要因の特徴を明らかにし，今後の未成年喫煙防止教育の方策を検討することである。ここで示す外国人を対象とした研究とは，日本以外の地域の人々を対象とした研究を示す。

Ⅲ．研 究 方 法

１．文献検索方法

「喫煙」,「要因」を日本語キーワードに,「initiation」,「smoking」,「factor」,「children」を英語キーワードとした。国内文献は，医学中央雑誌Web Ver 5（以下，医中誌）の検索システムを利用し，海外文献はPubMedおよびCINAHLの検索システムを利用して，2005年１月～2016年６月の過去10年間について原著論文を検索した。その結果，医中誌578件，PubMed63件，CINAHL23件が検出された。

原著論文を対象とし，そのタイトルと要旨から未成年の喫煙要因に関する文献を抽出した。対象者の年齢は，主に未成年のものを抽出したが，喫煙開始年齢が未成年である場合は成人を対象としている文献も抽出した。なお，海外文献については英語以外で書かれている論文３件と重複文献４件を除外した。

国内文献27件，海外文献37件の計64件を分析対象とした（表）。

２．分析方法

文献の内容から未成年の喫煙要因および喫煙防止要因を抽出し，類似性に従ってカテゴリー化を行った。その後，社会的認知理論の枠組み，および主要概念である【物理的環境】,【社会的環境】,【状況】,【行動能力】,【観察学習】,【強化】,【結果予測】,【結果期待】,【自己効力感】,【感情興奮のマネジメント】の10概念[9]を用いてカテゴリーを整理した。分析は小児保健を専門とする大学教員で実施した。

Ⅳ．結　　果

１．文献の概観

ⅰ．研究デザイン

分析対象とした64件の文献の研究デザインは，日本人を対象としている文献は，量的研究が25件であり，量的研究と質的研究を併用しているものが２件であった。外国人を対象としている文献は，量的研究が34件，量的研究と質的研究を併用しているものが１件，質的研究が２件であった。

ⅱ．データ収集方法および分析方法

量的研究については，全て質問紙調査法であった。質的研究は，個別のインタビュー４件，フォーカスグループインタビュー１件が用いられていた。

２．日本人を対象とした研究の未成年の喫煙要因および喫煙防止要因

ⅰ．喫煙要因

日本人を対象とした文献から抽出した未成年の喫煙要因の総数は124個であった。意味内容の類似性に従ってカテゴリー化したものを，社会的認知理論の主要な概念に分類した。その際，各主要概念に重複して分類されるカテゴリーもあった。

【物理的環境】は，メディア・広告等の影響（27），（以後の括弧内の数字は，表の文献Noを示す），タバコの入手しやすさ（２, 27），喫煙可能な環境（7），受動喫煙（2），【社会的環境】は，身近な人の喫煙（２，３，６，７, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 20, 22, 24, 25），身近な人からの勧誘（２,４, 18, 19, 21），親の不適切な養育態度（19, 21），子どもの喫煙に対する親の不

Presented by Medical*Online

介入（18, 19, 27），不良な家庭環境や家族関係（20），【状況】は，不健康な生活習慣（3,6,9, 10, 25, 26），男性という性別（1, 11, 12, 15, 20, 27），低い社会的スキル（20），社会や親への反発心（20），10代後半～20代前半という年齢（12），社会人経験（15），学校生活への不適応（21），学力に対する劣等感（20），家族のために役立てないという思い（20），【行動能力】は，喫煙に関する知識不足（11），【観察学習】は，身近な人の喫煙（2,3,6,7, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 20, 22, 24, 25），メディア・広告等の影響（27），【強化】は，身近な人の喫煙（2,3,6,7, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 20, 22, 24, 25），飲酒経験や飲酒習慣（5, 10, 14, 25, 20），喫煙への興味や好奇心（4, 13, 14, 23），【結果期待】は，喫煙を肯定する考え方（2,6,7, 11, 14, 26），喫煙に関する知識不足（11），【自己効力感】は，喫煙の勧めを断る低い自己効力感（11, 20, 21），【感情興奮のマネジメント】は，他者の目が気にならない性格（6,8, 13），ストレスを感じやすい性格（8, 22），ストレス（22, 25），【結果予測】は，該当するカテゴリーがみられなかった。

ⅱ．喫煙防止要因

日本人を対象とした文献から抽出した未成年の喫煙防止要因の総数は5個であった。意味内容の類似性に従ってカテゴリー化したものを，社会的認知理論の主要な概念に分類した。その際，各主要概念に重複して分類されるカテゴリーもあった。

【強化】は，周囲に迷惑をかけるという認識（2），CYP2A6遺伝子をもっていないという身体的特徴（23），【結果期待】は，喫煙に対する否定的なイメージ（2, 14），周囲に迷惑をかけるという認識（2），【物理的環境】，【社会的環境】，【状況】，【行動能力】，【観察学習】，【結果予測】，【自己効力感】，【感情興奮のマネジメント】に該当するカテゴリーはみられなかった。

3．外国人を対象とした研究の未成年の喫煙要因および喫煙防止要因

ⅰ．喫煙要因

外国人を対象とした文献から抽出した未成年の喫煙要因の総数は104個であった。意味内容の類似性に従ってカテゴリー化したものを，社会的認知理論の主要な概念に分類した。その際，各主要概念に重複して分類されるカテゴリーもあった。

【物理的環境】は，メディア・広告等の影響（39, 51, 62），暮らしにくさ（35, 44），国や地域の文化（29, 44），タバコの入手しやすさ（57），【社会的環境】は，身近な人の喫煙（29, 31, 32, 36, 37, 40, 41, 47, 54, 56, 58, 59, 61），喫煙に対する親の不介入（32, 33, 36, 40, 52, 54），身近な人からの勧誘・圧力（29, 41, 52, 60），不十分な親子関係（33, 36, 44, 50），親の喫煙や健康に対する知識不足（31, 38, 53, 60），親の反社会的な行動（44, 50），不良な家族関係（30），未成年の喫煙に対する教員の認識やコントロール力の欠如（36），【状況】は，低い学力（36, 48, 52），社会に対する反発（28），男性という性別（31, 32），進級および進学（44, 47），被虐待児（55），特定の人種（32），高い経済力（41），低い自己効力感（35），若年出産（50），親とのコミュニケーションへの無関心（33），学校への欠席（36），幼い頃の24か月以上のおしゃぶり使用（34），【行動能力】は，喫煙に関する知識不足（41, 53），【観察学習】は，身近な人の喫煙（29, 31, 32, 36, 37, 40, 41, 47, 54, 56, 58, 59, 61），メディア・広告等の影響（39,51,62），親の飲酒（50），【強化】は，身近な人の喫煙（29, 31, 32, 36, 37, 40, 41, 47, 54, 56, 58, 59, 61），受動喫煙に対する快感（43, 49），飲酒経験（31, 64），嗜好品の摂取（31），紙タバコ以外のタバコの使用（40），【結果予測】は，受動喫煙に対する快感（43, 49），【結果期待】は，喫煙を肯定する考え方（35, 41, 42, 47, 52, 54），喫煙に関する知識不足（41, 53），【感情興奮のマネジメント】は，好奇心や刺激を求める性格（28, 41），ストレス（41），周りから注意を引きたいという思いや非行（28, 48），低い行動コントロール能力（35），【自己効力感】に該当するカテゴリーはみられなかった。

ⅱ．喫煙防止要因

外国人を対象とした文献から抽出した未成年の喫煙防止要因の総数は17個であった。

意味内容の類似性に従ってカテゴリー化したものを，社会的認知理論の主要な概念に分類した。その際，各主要概念に重複して分類されるカテゴリーもあった。

【物理的環境】は，メディア等による嫌煙キャンペーン（63），【社会的環境】は，親の積極的な子どもへの関わり（39, 55, 60），身近な人の反対（41），高い家族の関連性（39, 45），【状況】は，スポーツ（61），子どもと親の関係性における高い満足感（37），子どもの親とのコミュニケーションへの関心（33），母乳

Presented by Medical*Online

表　分析対象文献一覧

No	著者	発行年	タイトル	雑誌名
1	笠巻純一.	2015	大学生の食・飲酒・喫煙行動の分析による健康支援策に関する研究　性・年齢・居住形態別による生活習慣病リスク要因の検討から	日本衛生学雑誌；70（1）：81-94.
2	原田隆之，他.	2014	大学生の喫煙支持要因の検討	日本禁煙学会雑誌；9（2）：22-28.
3	高坂育子.	2013	中学生の喫煙行動とその規定要因　家庭背景，健康行動，ニコチン依存	臨床精神医学；42（9）：1155-1159.
4	原 めぐみ，他.	2013	喫煙・受動喫煙状況，喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果　佐賀県の小学校6年生の153校7,585人を対象として	日本公衆衛生雑誌；60（8）：444-452.
5	森　千鶴.	2012	子どもの飲酒に影響する要因　中学生の親子実態調査から	日本社会精神医学会雑誌；21（1）：10-21.
6	角田英恵，他.	2011	男子大学生の喫煙に関連する要因　喫煙者と非喫煙者の比較から	健康科学： 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要；7 37-42.
7	北田雅子，他.	2011	喫煙未経験者の加濃式社会的ニコチン依存度（KTSND)’ならびに喫煙規制に対する意識が将来の喫煙行動に与える影響　大学生を対象とした追跡調査より	日本禁煙学会雑誌；6（6）：98-107.
8	瀬在　泉，他.	2011	大学生の喫煙行動と自己否定感・ストレス気質及び精神健康度との関連	日本禁煙学会雑誌；6（3）：24-32.
9	石田京子，他.	2010	学生の生活習慣と喫煙，健康状態，授業への出席状況との関連	創発：大阪健康福祉短期大学紀要；9：7-55.
10	鷲尾昌一，他.	2010	看護大学生の喫煙とその関連要因	臨牀と研究　87（10）：1455-1458.
11	大塚敏子，他.	2010	高校生の将来喫煙のリスクからみた特徴の分析　喫煙防止教育の検討に向けて	日本公衆衛生雑誌；57（5）：366-380.
12	上原佳子，他.	2009	大学生の喫煙行動と喫煙に対する態度と知識への影響要因	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌；19（2）：110-114.
13	小倉あかり，他.	2009	看護学生の喫煙行動と看護職への意欲並びに性格的要因との関係	秋田県母性衛生学会雑誌；23：58-63.
14	森　益子，他.	2008	体育会所属学生の喫煙状況と関連要因　効果的な喫煙防止対策への提言	臨床スポーツ医学　25（9）：1077-1084.
15	弥永和美，他.	2008	看護学生の喫煙行動とその関連要因	聖マリア学院紀要；22：41-47.
16	戸部和夫，他.	2008	男子学生入学時の喫煙志向度とその後の喫煙開始状況に関する検討　面接調査を含めて	CAMPUS HEALTH；45（2）：153-158.
17	吉田貴美代，他.	2008	看護大学生・看護短期大学生の喫煙状況とその関連要因の検討	聖マリア学院紀要；22：15-19.
18	安藤美津子，他.	2008	中学生の喫煙の現状と保護者の喫煙に対する意識の関与　喫煙に関する中学生と保護者の同時調査	香川大学看護学雑誌；12（1）：7-17.
19	藤田　信.	2008	一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と関連要因に関する大規模調査研究（第3報）　小・中学生の喫煙行動と保護者による養育状況との関連	厚生の指標；55（10）：31-39.
20	今出友紀子，他.	2007	思春期の子どもたちの喫煙開始に関わる要因	学校保健研究；49（3）：170-179.
21	Ando Mikayo，et al.	2007	Psychosocial factors associated with smoking and drinking among Japanese early adolescent boys and girls：Cross-sectional study	Biopsychosocial Medicine：1-10.
22	瀬在　泉，他.	2007	青年期の喫煙行動と否定的な自己イメージスクリプトとの関連	思春期学；25（4）：445-454.
23	和賀央子，他.	2006	若年者の喫煙行動における CYP2A6遺伝子多型および NEO-FFI における人格検査	日本アルコール・薬物医学会雑誌；41（4）：380-386.
24	Asae OURA，et al.	2006	Factors which influence pupils to smoke in Japan	札幌医学雑誌；75（4-6）：29-35.
25	渡辺孝子.	2005	看護学生の喫煙行動と影響要因	日本看護学会論文集：看護教育；36：113-115.
26	藤田　信.	2005	保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動と関連要因に関する大規模調査研究	厚生の指標；52（2）：14-22.
27	坂口早苗，他.	2005	大学生の喫煙行動に関連する要因についての検討	日本公衆衛生雑誌；52（6）：477-485.
28	Baheiraei A，et al.	2015	Psycho-social Needs Impact on Hookah Smoking Initiation among Women：A Qualitative Study from Iran	Int J Prev Med；24（6）：79.
29	Baheiraei A，et al.	2015	The Role of Family on Hookah Smoking Initiation in Women	A Qualitative Study；7（5）：1-10.
30	Rajesh Vandita，et al.	2015	Smoking Initiation Among Mexican Heritage Youth and the Roles of Family Cohesion and Conflict	Journal of Adolescent Health；57（1）：24-30.
31	中世古恵美，他.	2014	Vanuatu 共和国の小学校高学年における喫煙，飲酒，カヴァ飲用経験の関連要因	日本公衆衛生雑誌；61（12）：718-731.
32	Xinguang Chen，et al.	2014	Smoking Initiation Associated With Specific Periods in the Life Course From Birth to Young Adulthood：Data From the National Longitudinal Survey of Youth 1997	American Journal of Public Health；104（2）：119-126.
33	Lippold，et al.	2014	Youths’substance use and changes in parental knowledge-related behaviors during middle school： a person-oriented approach	J Youth Adolesc；43（5）：729-744.

Presented by Medical*Online

No	著者	発行年	タイトル	雑誌名
34	Ferreira HR, et al.	2014	Prolonged pacifier use during infancy and smoking initiation in adolescence : evidence from a historical cohort study	Eur Addict Res 2014 ; 21 (1) : 33-38.
35	Tang Sze Man, et al.	2013	Smoking initiation and personal characteristics of secondary students in Hong Kong	Journal of Advanced Nursing ; 69 (7) : 1595-1606.
36	Yañez A, et al.	2013	School, family and adolescent smoking	Adicciones ; 25 (3) : 253-259.
37	Mahabee-Gittens, et al.	2013	The dynamic role of parental influences in preventing adolescent smoking initiation	Addict Behav ; 38 (4) : 1905-1911.
38	Selya AS, et al.	2013	Exploring alternate processes contributing to the association between maternal smoking and the smoking behavior among young adult offspring	Nicotine Tob Res ; 15 (11) : 1873-1882.
39	Slater MD, et al.	2013	Prospective influence of music-related media exposure on adolescent substance-use initiation : a peer group mediation model	J Health Commun ; 18 (3) : 291-305.
40	Bejjani N, et al.	2012	The social context of tobacco products use among adolescents in Lebanon	J Epidemiol Glob Health ; 2 (1) : 15-22.
41	Tohid Hizlinda, et al.	2011	What Determines Teenagers' Smoking Behaviour? : A Qualitative Study	International Medical Journal ; 18 (3) : 194-198.
42	Wang Man Ping, et al.	2011	Overestimation of Peer Smoking Prevalence Predicts Smoking Initiation Among Primary School Students in Hong Kong	Journal of Adolescent Health ; 48 (4) : 418-420.
43	Lessov-Schlaggar CN, et al.	2011	Sensitivity to secondhand smoke exposure predicts future smoking susceptibility	Pediatrics ; 128 (2) : 254-262.
44	King Gary Gilreath, et al.	2011	Smoking among high school male students in rural South Africa	Journal of Substance Use ; 16 (4) : 282-294.
45	Mahabee-Gittens EM, et al.	2011	The Protective Influence of Family Bonding on Smoking Initiation in Adolescents by Racial/Ethnic and Age Subgroups	J Child Adolesc Subst Abuse ; 20 (3) : 270-287.
46	Verlato Giuseppe, et al.	2011	Asthma in Childhood Reduces Smoking Initiation in Subsequent Teens Among Males	Journal of Adolescent Health ; 48 (3) : 253-258.
47	Oh DL, et al.	2010	Determinants of smoking initiation among women in five European countries : a cross-sectional survey	BMC Public Health ; 17 (10) : 74.
48	de Meer G, et al.	2010	Gender differences in the association between pre-adolescent smoking initiation and emotional or behavioural problems	BMC Public Health ; 18 (10) : 615.
49	Lessov-Schlaggar CN, et al.	2010	Sensitivity to secondhand smoke exposure predicts smoking susceptibility in 8-13-year-old never smokers	J Adolesc Health ; 48 (3) : 234-240.
50	Cavazos-Rehg PA, et al.	2010	Understanding adolescent parenthood from a multisystemic perspective	Journal of Adolescent Health ; 46 (6) : 525-531.
51	Messer K, et al.	2010	Changes in age trajectories of smoking experimentation during the California Tobacco Control Program	American Journal of Public Health ; 100 (7) : 1298-1306.
52	Homsin P, et al.	2009	Predictors of early stages of smoking uptake among Thai male adolescents	Thai Journal of Nursing Research ; 13 (1) : 28-41.
53	Song AV, et al.	2009	Perceptions of second-hand smoke risks predict future adolescent smoking initiation	J Adolesc Health, ; 45 (6) : 618-625.
54	Wilkinson AV, et al.	2008	The moderating role of parental smoking on their children's attitudes toward smoking among a predominantly minority sample : a cross-sectional analysis	Subst Abuse Treat Prev Policy ; 14 (3) : 18.
55	Jun HJ, et al.	2008	Child abuse and smoking among young women : the importance of severity, accumulation, and timing	Journal of Adolescent Health ; 43 (1) : 55-63.
56	Fidler JA, et al.	2008	Smoking status of step-parents as a risk factor for smoking in adolescence	Addiction ; 103 (3) : 496-501.
57	Doubeni CA, et al.	2008	Perceived accessibility as a predictor of youth smoking	Ann Fam Med ; 6 (4) : 323-330.
58	Hunt K, et al.	2008	An examination of the association between seeing smoking in films and tobacco use in young adults in the west of Scotland : cross-sectional study	Health Educ Res ; 24 (1) : 22-31.
59	Albers AB, et al.	2008	Household smoking bans and adolescent antismoking attitudes and smoking initiation : findings from a longitudinal study of a Massachusetts youth cohort	American Journal of Public Health ; 98 (10) : 1886-1893.
60	Westling E, et al.	2008	Pubertal timing and substance use : the effects of gender, parental monitoring and deviant peers	Journal of Adolescent Health ; 42 (6) : 555-563.
61	Hedman L, et al.	2007	Factors related to tobacco use among teenagers	Respir Med ; 101 (3) : 496-502.
62	Hanewinkel R.	2007	Smoking in Hollywood movies : impact on teen smoking with special reference to German adolescents	Przegl Lek ; 64 (10) : 615-617.
63	Davis KC, et al.	2007	Association between national smoking prevention campaigns and perceived smoking prevalence among youth in the United States	J Adolesc Health ; 41 (5) : 430-436.
64	Burgess Dowdell E.	2006	Alcohol use, smoking, and feeling unsafe : health risk behaviors of two urban seventh grade classes	Compr Pediatr Nurs ; 729 (3) : 157-171.

本文中の（　）内の番号は文献 No を示す。

Presented by Medical*Online

育児（34），【行動能力】は，受動喫煙に対する危険の認識（53），【観察学習】は，家族内での喫煙禁止（59），【強化】は，受動喫煙に対する危険の認識（53），受動喫煙に対する不快感（49），幼児期の喘息の既往歴（46），【結果予測】は，受動喫煙に対する不快感（49），【結果期待】は，受動喫煙に対する危険の認識（53），【自己効力感】，【感情興奮のマネジメント】に該当するカテゴリーはみられなかった。

Ⅴ．考　　察

1．未成年の喫煙要因に関する研究の動向

研究方法は，海外文献と国内文献に大差はみられず，観察研究が主であり，質問紙を用い，量的に比較分析をしている研究が多く，海外においては大規模なコホート研究の結果を分析しているものもあった。一部の研究は，共分散構造分析を用い要因間の関連や影響を構造化して述べていたが[7,8]，扱う変数が限られており，未成年の喫煙に影響する要因を網羅的に構造化しているものではなかった。このことから，未成年の喫煙要因に関して，多数ある要因がどのように関連，影響し合っているのかについてその構造を明らかにしていく研究が必要であると考える。

2．日本人を対象とした研究の未成年の喫煙要因および喫煙防止要因の特徴

ⅰ．喫煙要因

日本では喫煙可能な環境が多くあることや，受動喫煙させられているという特徴的な物理的環境があることが明らかとなった。また，親から適切な養育を受けられないことも喫煙の環境的な要因となることが明らかになった。さらに，日本では，多くの文献が，不健康な生活習慣を喫煙要因に挙げており，生活習慣の乱れが喫煙の要因になるのではないかと考えられていた。しかし，喫煙と不健康な生活習慣の因果関係は明らかにされておらず，どちらがどのように関連，または影響しているのかを明らかにする必要があると考える。低い社会的スキルや家族のために役立てないという思いという特徴もみられ，日本人にとっては，家族や友人といった身近な人たちとの関係づくりやコミュニケーションなど対人関係の難しさが喫煙要因となっていた。さらに，社会人経験も要因とされており，法律的に認められる年齢になることと同様に，学生から社会人になる節目においても，喫煙開始のリスクが上がることが考えられる。喫煙への興味関心については，日本においては，タバコ産業が「タバコは大人の嗜好品」というメッセージを送っていることが興味関心を駆り立てている可能性も考えられる。また，タバコの勧めを断れないという特徴もある。そのような能力が培われていないことも原因であると考えられるが，はっきりと断らない日本文化[10,11]なども影響しているのではないかと考えられる。また，単一民族という文化的背景から，和を重んじ，みんなと同じでなくてはならないという他人の目を気にする特性があり[12]，喫煙する自分を周りはどのように捉えるのであろうかということが，喫煙を思いとどまらせる一つの要因になっていると考えられる。そのため，日本人の特徴として，他者の目が気にならないという性格的特徴が喫煙要因となっていると考えられる。

ⅱ．喫煙防止要因

日本人では，受動喫煙の健康被害など社会的に喫煙の被害が社会に広まってきたことで，喫煙は人に迷惑をかけるといった社会的規範意識が強くなり，人に迷惑をかけるという思いが，喫煙の防止要因になっていると考えられる。高橋が青年期を対象に行った調査[13]でも，未成年の喫煙については，規範意識の上昇がみられている。また，CYP2A6遺伝子をもっていないという身体的特徴があることも特徴として挙げられた。

3．外国人を対象とした研究の未成年の喫煙要因および喫煙防止要因の特徴

ⅰ．喫煙要因

外国人では，経済的な貧困などの暮らしにくさといった環境が特徴的な要因として挙げられていた。社会的な環境としては，子どもをサポートする存在である親や教員が健康や喫煙についてどのような知識や認識を持つのかといったことが要因となっていた。子どもをサポートしていく存在としての親や教員の重要性を示していると考えられ，日本でも重要視していく必要があると考えられる。

【状況】にある個人的な要因については，虐待や貧困など日本人を対象とした研究では調査されていない項目が多いが，個別の状況を把握し，介入していく必要があると考えられる。また，外国人に特徴的であったのは，観察学習が喫煙だけでなく，飲酒が要因となっていることである。これは，子どもの観察学習により，子どもの飲酒へとつながり，間接的に喫煙の要因と

Presented by Medical*Online

なっていることが推測される。また，受動喫煙に対し快感を得ることは，受動喫煙によって喫煙が強化される可能性があり，受動喫煙が喫煙開始の要因となっている日本人にとっても，重要な要因であると考えられる。また，衝動的な感情をコントロールする能力を養うことも，喫煙防止教育には重要であると考えられる。

ⅱ．喫煙防止要因

外国人では，メディアによる嫌煙キャンペーンが実施されており，喫煙に関する正しい情報を手に入れる環境が整っていると考えられる。また，家族全員が喫煙しなければ，喫煙しないことが当たり前であると学習する機会となっていると考えられるため，家族の喫煙状況は非常に重要な要因であると考える。さらに，子どもをサポートする親の存在，親子関係の重要性が示されており，このような環境を整えていくことが重要であると考えられる。

【状況】にある個人的要因では，子どもが親子関係に満足していることが重要であると示された。また，スポーツに打ち込むことで自己実現意欲が高まり[14]，それを達成するためには，喫煙するべきでないとセルフコントロールしていけるのだと考える。さらに，能動喫煙の危険ではなく，受動喫煙の危険についての認識が保護要因になっていることは特徴的であり，喫煙防止教育の中で，受動喫煙を能動喫煙と同じぐらい丁寧に扱う重要性を示しているのではないかと考える。受動喫煙に対する不快感，幼児期の喘息の既往歴といった身体的特徴が，喫煙防止要因となっていることは日本と同様である。

4．要因から考えられる今後の喫煙防止教育の方策

今回，社会的認知理論を用いて要因を整理することで，未成年に対し，喫煙防止教育を効果的に行う背景として，社会全体として子どもを喫煙から守るための環境整備，良好な親子関係，サポートする立場としての親は，健康や喫煙に対する正確な知識を備えていることが重要であることが明らかになった。また，喫煙防止教育を実施するにあたり，その集団にどのような特徴があるのか，個人の特徴である【状況】をアセスメントし，実施する必要性や個別介入の必要性が明らかになった。さらに，喫煙に関する教育と合わせて，ストレスマネジメントや感情コントロールに関する教育を同時に行う必要性が示唆された。

日本人への教育の特徴としては，周りに迷惑をかけたくないという認識が喫煙の保護要因となっているため，喫煙は，喫煙者だけの問題ではなく，周りの人の健康も害する恐れがあるということを伝えること，受動喫煙の害についても丁寧に伝えていくことが効果的であるのではないかと考えられる。また，はっきりと断ることや自分の意見を言うことが苦手な日本人に対しては，喫煙の勧めを断るロールプレイなど，日本の文化的特徴を踏まえた教育も重要であると考えられる。

日本では，過去5年間に行われた研究を概観しても，未成年を対象とした喫煙防止教育は，多くの場合喫煙に関する内容を，生徒や学生のみを対象に行われている研究のみであった[2,15～27]。しかし，【社会的環境】，【観察学習】において，とくに家族の存在は重要であることが明らかになったため，家族を巻き込んだ喫煙防止教育が重要であると考える。

また，一部の研究ではストレスマネジメントや，感情コントロール，社会的スキルなどを，段階的に時間をかけて実施している教育もある[28]。このような教育ができる環境を整えることが重要であると考えるが，日本の現状では時間的に難しい面もあると考えられる。そのため，これらの要因が実際にどのように影響し合い，どの要因が最も喫煙に関連しているのかについて，外国人を対象とした研究で明らかになった要因も含め，量的に調査を行い，因果関係を明らかにし，短時間で効果的に行うことができる喫煙防止教育プログラムを開発する必要があると考えられる。

Ⅵ．まとめ

未成年の喫煙要因および喫煙防止要因を，社会的認知理論を用い整理することで，以下の知見を得た。

1．未成年の喫煙防止教育を効果的に行うための背景として，社会全体として子どもを喫煙から守るための環境整備，良好な親子関係，子どもをサポートする立場にある親は，健康や喫煙に対する正しい知識を備えていることが重要であることが明らかになった。

2．喫煙防止教育においては，ストレスマネジメントや感情コントロールの方法についても合わせて教育していく必要性が示唆された。

3．日本人への喫煙防止教育は，能動喫煙と同じぐらい受動喫煙を丁寧に扱うこと，喫煙の勧誘に対して断る自己効力感を高めることが重要と考えられた。

Presented by Medical*Online

４．日本人を対象とした研究では明らかにされていない喫煙要因および喫煙防止要因においても，量的に調査を行い，要因間の因果関係を明らかにし，短時間で効果的な喫煙防止プログラムを開発する必要があると考えられる。

本研究は，平成26年度科研費（若手研究Ｂ 26870492）により実施されたものの一部である。
利益相反に関する開示事項はありません。

文　　献

1）厚生労働省．平成22年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業．「未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究」班（主任研究者：大井田 隆）2010．http：//www.gakkohoken.jp/modules/pico/images/toko/2010kitsueninshu.pdf（参照2016-08-18）
2）原めぐみ，田中恵太郎．喫煙・受動喫煙状況，喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果佐賀県の小学校６年生の153校7,585人を対象として．日本公衆衛生雑誌　2013；60：444-452.
3）加治正行．喫煙による子どもの健康被害．小児科臨床　2008；61（3）：347-354.
4）文部科学省．小学校学習指導要領．2008．http：//www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/11/29/syo.pdf（参照2016-08-18）
5）文部科学省．中学校学習指導要領．2008．http：//www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/_icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf（参照2016-08-18）
6）加納亜紀，上村弘子，田嶋八千代．養護教諭が行う保健指導の現状―個別及び集団の保健指導の校種間比較―．学校保健研究　2016；57（6）：323-333.
7）高坂育子．中学生の喫煙行動とその規定要因　家庭背景，健康行動，ニコチン依存．臨床精神医学　2013；42（9）：1155-1159.
8）瀬在　泉，宗像恒次．青年期の喫煙行動と否定的な自己イメージスクリプトとの関連．思春期学　2007；25（4）：445-454.
9）グランツ K，リマー BK，ルイス FM．健康行動と健康教育　理論，研究，実践．曽根智史，湯浅資之，渡部　基，他監訳．東京：医学書院，2010：151-176.（Glanz K，Rimer BK，Lewis FM．HEALTH BEHAVIOR AND HEALTH EDUCATION．THEORY，RESEARCH，AND PRACTICE，3RD EDITION，John Wiley & Sons，Inc，San Francisco，2002.）
10）笹川洋子．異文化の視点からみた日本語の曖昧性．日本語教育　1996；89：52-63.
11）吉井千明．断り表現―親しさの度合いに着目して―．東京女子大学言語文化研究　2009；18：70-86.
12）LIU Liyun，DO Eunjin，SONG jingjing．外国人日本語学習者から見た場面的意味における日本語の曖昧性について．桜花学園大学人文学部研究紀要　2011；13：77-86.
13）高橋征仁．コールバーグ理論と道徳意識研究―規範意識における相対化と逸脱行動．社会学研究　2003；74：27-58.
14）徳永幹雄，橋本公雄，高柳茂美．スポーツクラブ経験が日常生活の心理的対処能力に及ぼす影響．健康科学　1994；17：59-68.
15）家田重晴，天野雅斗，大窄貴史，他．看護学生を対象とした喫煙防止教育の効果　８ヵ月後のフォローアップを含めて．東海学校保健研究　2016；40（1）：49-60.
16）鈴木修一，小谷美知子，三枝奈芳紀，他．千葉県の学校におけるプリント学習による喫煙防止教育の実施可能性．日本小児禁煙研究会雑誌　2016；６（2）：20-25.
17）飯塚眞喜人，本澤俊昭，小林秀行，他．医療系専門学校の新入生を対象とした禁煙教育への COPD 疑似体験マスクの導入効果．臨床環境医学　2014;23（1）：41-48.
18）今野美紀，浅利剛史，田畑久江，他．小学６年生に行った喫煙防止教育の効果．日本小児禁煙研究会雑誌　2014；４（2）：121-128.
19）勝又聖夫，平田紀美子，小林麻衣子，他．改良したタバコ煙採取法を含む喫煙防止教育プログラムの検討．日本衛生学雑誌　2014；69（3）235-241.
20）川崎詔子，高橋裕子．大学入学時点での喫煙経験の有無が喫煙防止教育の成果に与える影響について．禁煙科学　2014；８（8）：1-7.
21）棟方百熊，郷木義子，廣原紀恵，他．喫煙に関する高校生の認識と態度　講演会の前後における比較から．教育保健研究　2012；17：63-68.
22）川崎詔子，高橋裕子．大学生に対する参加型喫煙防

Presented by Medical*Online

止教育の長期有用性について．CAMPUS HEALTH 2013；50（2）：68-73.
23）奥田紀久子，中瀬勝則，近藤和也，他．喫煙防止教育前後における高校生の喫煙に対する態度と意識の変化．四国医学雑誌　2012；68（5-6）：239-244.
24）川崎詔子，高橋裕子．大学新入生を対象とした参加型喫煙防止教育の成果と有用性について．禁煙科学 2012；6（10）：11-17.
25）鈴木修一．中学生に対する音声とプリントによる受動喫煙防止教育　取り組み方と印象に残ったテーマの選択における家族喫煙者の影響．禁煙科学　2012；6（5）1-7.
26）奥田紀久子，中瀬勝則，近藤和也，高校生を対象とした喫煙防止教育の効果及び家族への波及効果．四国医学雑誌　2012；68（3-4）：131-138.
27）大塚敏子，荒木田美香子，三上　洋．高校生の将来喫煙のリスクに対応した喫煙防止教育の効果の検討．日本地域看護学会誌　2012；14（2）：72-81.
28）西岡伸紀．未成年への喫煙防止教育プログラム―教育内容と学習方法，および評価―．保健医療科 2005；54（4）：319-325.

〔Summary〕

The objective of this study was to identify factors that promote and inhibit smoking behavior in minors using the social cognitive theory framework. A literature review covering approximately 10 years of research on factors related to smoking in minors was conducted using search engines of the Japan Medical Abstracts Society（Web Ver 5），PubMed and CINAHL.

The present study showed that establishment of an environment for protecting children from smoking by society as a whole，good parent-child relationships，and the correct knowledge of health and smoking among parents，who are in a position to support children，are important for effectively implementing smoking prevention education for minors. In addition，the need to educate minors on methods of stress management and emotional control was also indicated.

〔Key words〕
children，smoking factor，smoking prevention factor，social cognitive theory

Presented by Medical*Online